

旧海軍極秘地下施設

施設管理者 : 慶應義塾大学日吉キャンパス、日吉台地下壕保存の会
 施設所在地 : 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
 調査見学時期 : 平成16年3月9日
 施設概要 :

1944(昭和19)年7月にサイパン島が陥落、8月中旬までにマリアナ諸島の島々が米軍に占領され、日本の防衛線は小笠原・沖縄・フィリピンまで後退し、連合艦隊司令部は、9月29日に日吉の慶應大学の学生寮に入って作戦を立てることにした。それに伴い丘の地下に長大な施設を建設することにした。

地下壕の長さは、慶應大学キャンパス内だけでも2.63kmの長さがあり、下に示すように複雑な迷路のような構造で分厚いコンクリート被覆で頑丈にできている。

工事は第3010設営隊(1500名の大型設営隊)が中心となり、突貫工事が1944年から始められ、完成した部分から使用を開始した。地下壕の施工方法は、「Z₃工法」と呼ばれた穿孔工法が使われた。軍令部第三部(情報部)がこの地下壕に入ったのは1945年になってからで敗戦の日まで続いた。

1989年に日吉台地下壕保存の会が発足し、保存運動を進めています。慶應大学は2001年3月に地下壕の整備工事を行い、安全に見学ができるようになった。



耐弾式豎穴坑



地下壕内部

